

令和7年度 地域支援・地域活動協議会の支援・取組事例（回答）

区名	阿倍野区
----	------

地域活動協議会の自律に向けたまちづくりセンター等の取組事例（箇条書きで可）
「様式1 取組状態・自律度の状況把握シート」の基本項目で令和6年度期末と比較して向上し、○Aとなったものについて、各区が各地域活動協議会の自律を進めるための支援として、まちづくりセンター等の取組により自律につながった事例をご回答ください。 ・一昨年度青少年子ども部会の担当者が不在となり、子ども関連の行事の実施が困難となっていた状況だったが、まちづくりセンターから桃山学院大学ビジネスデザイン学部の牧野ゼミを紹介したおとで連携が実現し、「大学生と地域住民の連携イベント」事業として、子ども向けイベントを3回実施することができた。（金塚地域） ・総務広報部会においては、大阪公立大学との連携が実現し、大学教授と大学院生の協力により、福祉関連のセミナーを3回実施することができた。看護学部教授らが講師となり、「縁起でもない話をしよう」「フットプリント」「介護の受け方・使い方」など、オリジナル性の高い地域の興味や関心を引くテーマでワークショップを開催することができ、地域の参加者に好評を博した。（金塚地域）

まちづくりセンター等による新たな取組事例（箇条書きで可）
上記のほか、令和7年度に新たに実施したまちづくりセンター等による取組がありましたら、ご回答ください。 ・常盤地域では担い手不足で困っており、新たな事業となる地域文化の伝承行事「もちつき大会」や「盆踊り」などで担い手を募集することとなった。まちづくりセンターが普段から取り組んでいる「ボランティア募集→地域との連携」の流れをモデルとしながら、地域独自で行うこととなり、ボランティア募集ちらしを作成し、地域住民を対象に全戸配布したところ、PTAをしている保護者世代の住民を含む、10件近くのボランティア登録があった。

実施主体に関わらず他区・他地域に共有できる好事例（箇条書きで可）
区役所、まちづくりセンター、地域等の実施主体に関わらず、上記項目以外で他区・他地域に共有できる支援、取組がありましたら、ご回答ください。（実施主体名と内容を記載してください） ・晴明丘地域と桃山学院大学ビジネスデザイン学部の連携・・・「ハロウィン秋祭り」司会を桃山学院大学ビジネスデザイン学部の学生らが担当した。 ・地域活動見本市・・・各テーブルでの情報共有ツールとして模造紙の代わりにPadletという無料アプリを採用し、各テーブルのメンバーがディスカッションの内容の記入をスマホで行った。また、共有・発表はスクリーンを用いて行った。「ディスカッションの内容を残しておきたい」ということで各地域に好評で、今後の会議などでも活用していきたい旨の声が寄せられた。 ・高松地域と桃山学院大学ビジネスデザイン学部の学生の連携・・・「高松まつり」において、学生がボランティアスタッフとして1ブースを担当した。 ・長池地域と桃山学院大学ビジネスデザイン学部の学生の連携・・・「長池ふれあいフェスティバル」において、ボランティアスタッフとして学生が2ブースを担当した。学生が事前会議にも出席し、内容の議論から関わった。 ・文の里地域と明浄学院高校の連携・・・高校生がハロウィン事業のボランティアスタッフとして活動した。